

(仮称) 青森市障がい者計画策定に係るアンケート調査の概要

調査期間

平成 27 年 8 月 17 日 (月) ~ 8 月 31 日 (月)

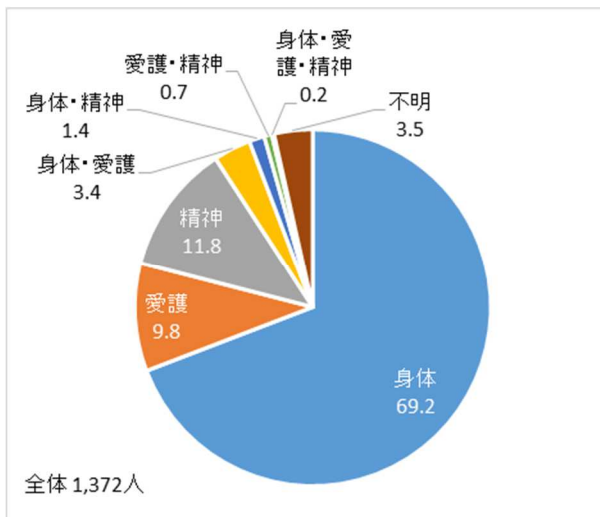
※ 締め切り後 9 月 10 日までに到着したものも集計に加えた。

回収状況

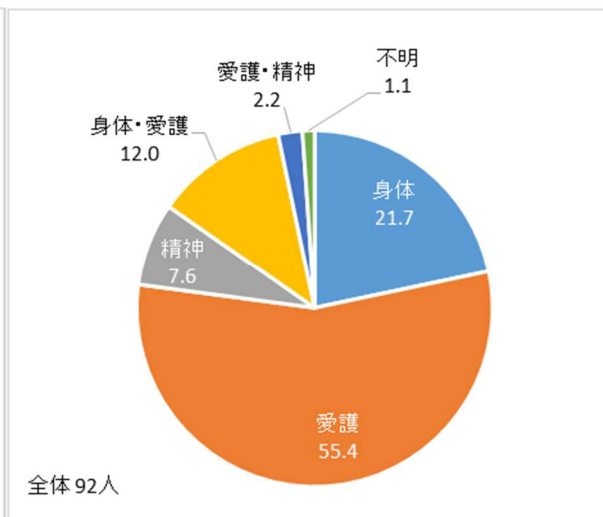
対象	配付数	回収数	回収率
全体	2,500 件	1,464 件	58.6%
障がいのあるかた	2,360 件	1,372 件	58.1%
障がいのあるお子さんの保護者	140 件	92 件	65.7%

障がい種別毎の割合

○障がいのあるかた



○障がいのあるお子さんの保護者



障がい種別	障がいのあるかた	障がいのあるお子さんの保護者
身体	69.2%	21.7%
愛護	9.8%	55.4%
精神	11.8%	7.6%
身体・愛護	3.4%	12.0%
身体・精神	1.4%	0.0%
愛護・精神	0.7%	2.2%
身体・愛護・精神	0.2%	0.0%
不明	3.5%	1.1%

アンケート調査から見える障がい者の状況

障がいのあるかた

1 日常生活の状況

- どのような暮らしを望んでいるかについては、「自宅で暮らしたい」と答えた方の割合が 63.3%と最も高くなっています。（問 9）
- 平日の日中の主な過ごし方については、「自宅で過ごしている」と答えた方の割合が 55.7%と最も高くなっています。（問 13）

在宅での暮らしを続けたいと考えている。

- 外出時に不便に感じることにについては、「特にない」と答えた方の割合が 33.3%と最も高く、次いで「歩道、道路、出入口に段差がある」が 31.3%となっています。（問 12）
- 障がい福祉施策で改善や拡充をしてほしいと思うことについて、「道路・交通・建物のバリアフリー」が 20.2%となっています。（問 17）
- 地域で自立して生活を送るために重要だと思うことについて、「段差などがなく利用しやすい公共施設・交通機関等の整備」が 29.7%となっています。（問 18）

道路や建物のバリアフリー化が進んでいると感じている方がいる一方で、まだ充分ではないと感じている方もいる。

2 就労について

- 平日の日中の主な過ごし方について、「知的障がい」及び「知的障がい・精神障がい」では、「就労支援施設に通っている」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 13）
- 施設に通いたい（通い続けたい）かについて、「知的障がい」では、「将来の就労につながる就労訓練や作業中心の施設に通いたい」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 14）
- 働くために必要だと思うことについて、「障がいのあるかたにあった仕事を用意されていること」と答えた方の割合は、「知的障がい」及び「身体障がい・知的障がい」で最も高くなっています。（問 15）

知的障がいのある方は 20 代 30 代の割合が高く、就労意欲があり、障がいの特性に合った仕事が必要だと感じている。

3 福祉サービスについて

- 相談相手については、「家族・親せき」と答えた方の割合が 60.0%と最も高くなっています。（問 7）
- 障がい福祉施策で改善や拡充してほしいと思うことについて、「相談支援体制」が 20.4%となっています。（問 17）
- 地域で自立して生活を送るために重要だと思うことについては、「相談窓口や情報提供の充実」と答えた方の割合が 36.4%と最も高くなっています。（問 18）

専門的な相談を受けてくれる場が、身近には無いと感じている。

4 差別や偏見について

- 障がいへの理解を深めるために必要だと思うことについては、「障がいへの理解を深めるための広報・啓発を充実する」と答えた方の割合が 40.5%と最も高くなっています。（問 20）
- 働くために必要だと思うことについて、「事業主や職場の人たちが、障がい者雇用について十分理解していること」が 24.4%となっています。（問 15）
- 外出時に不便に感じることにについて、「知的障がい」及び「知的障がい・精神障がい」では、「周囲に自分の意思を伝えたりすることがむずかしい」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 12）

障がいに対する理解が足りないと感じている。

5 防災について

- 災害時の支援体制については、「避難所への誘導」と答えた方の割合が 55.5%と最も高く、次いで「障がい者に配慮した避難所運営」が 44.0%となっています。（問 22）

避難時や避難所での生活に不安を感じている。

障がいのあるお子さんの保護者

1 日常生活について

○療育や支援で充実させるべき点については、「友達など人とのかかわり方に対する支援」と答えた方の割合が 48.9%と最も高く、次いで「療育を行う施設の増設」が 44.6%となっています。

また、「身体障がい」では、「学習に対する支援」及び「送り迎えなど通園・通学に対するサービス」、「療育の内容や施設についての情報」と答えた方の割合が最も高く、「知的障がい」及び「精神障がい」では、「友達など人とのかかわり方に対する支援」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 9）

身体障がいのある方は、学習や通園・通学での支援の充実を、知的障がいや精神障がいのある方は、人とのかかわり方に対する支援の充実を望んでいる。

2 就学について

○教育や学校生活で充実させるべき点については、「友人との関係づくり」及び「就労に向けた教育」と答えた方の割合が 38.0%と最も高く、次いで「教職員の理解・支援」が 30.4%となっています。（問 10）

友人との関係づくりや就労に向けた教育、教職員の障がいに対する理解の充実を望んでいる。

3 外出について

○外出時に困ったり不便に感じたりすることについては、「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとるのがむずかしい」と答えた方の割合が 52.2%と最も高く、次いで「バス・電車等の中や、店、施設の中で落ち着いて過ごすことが難しい」が 33.7%となっています。（問 12）

自分の意思を伝えることや落ち着いて過ごすことが難しいと感じている。

4 悩みごとについて

○悩みごとや困ったことについては、「お子さんの将来のこと」と答えた方の割合が 73.9%と最も高く、次いで「お子さんの就職のこと」が 52.2%、「お子さんの育児や教育のこと」が 45.7%となっています。（問 13）



子どもの将来に不安を感じている。

5 福祉サービスについて

○福祉サービスを利用しているかについては、「放課後等デイサービス」と答えた方の割合が 35.9%と最も高く、次いで「児童発達支援」が 21.7%となっています。（問 15）



放課後等デイサービスや児童発達支援を利用している方が多い。

アンケート調査結果抜粋

障がいのあるかた

1 日常生活の状況

(1) 暮らしについて

- 現在の住まいについては、「自宅・借家」と答えた方の割合が 71.6%と最も高く、前回の調査と同様の結果となっています。（問 4）
- 一緒に暮らしている方については、「夫婦で暮らしている」と答えた方の割合が 35.5%と最も高くなっています。「夫婦で暮らしている」と答えた方の割合は、「身体障がい」で最も高くなっています。
また、「知的障がい」及び「精神障がい」、「身体障がい・知的障がい」では、「親と暮らしている」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 5）
- 介助や支援をしている方については、「配偶者」と答えた方の割合が 31.4%と最も高く、次いで「子ども」が 20.9%となっており、前回の調査と同様の結果となっています。
また、「知的障がい」及び「精神障がい」、「身体障がい・知的障がい」では、「母親」と答えた方の割合が最も高く、「知的障がい・精神障がい」では、「施設の職員・世話人」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 6）
- どのような暮らしを望んでいるかについては、「自宅で暮らしたい」と答えた方の割合が 63.3%と最も高くなっています。（問 9）

(2) 相談相手について

- 相談相手については、「家族・親せき」と答えた方の割合が 60.0%と最も高く、前回の調査と同様の結果となっています。（問 7）

(3) 情報の取得について

- 情報をどのように得ているかについては、「本・新聞・雑誌」と答えた方の割合が 58.6%と最も高く、次いで「テレビ」が 52.6%となっています。前回の調査では、「テレビ」と答えた方の割合が 74.7%と最も高く、次いで「一般図書・新聞・雑誌」が 44.8%でした。
また、「身体障がい・知的障がい」では、「事業所等施設の職員」と答えた方、「知的障がい・精神障がい」では、「家族・友人」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 8）

(4) 外出について

- 外出の頻度については、全体で「1～2回」と答えた方の割合が 33.4%と最も高く、次いで「3～5回」が 26.7%となっています。前回の調査と同様の結果でした。（問 10）
- 移動手段については、「自家用車（家族等が運転）」と答えた方の割合が 39.1%と最も高く、次いで「徒歩」が 36.7%、「公共交通機関（市営バス等）」が 32.9%となっています。前回の調査では、

「自家用車（家族等が運転）」と答えた方の割合が 38.4%と最も高く、次いで「市営バス」が 34.5%でした。（問 11）

- 外出時に不便に感じることについては、「特にない」と答えた方の割合が 33.3%と最も高く、次いで「歩道、道路、出入口に段差がある」が 31.3%となっています。前回の調査では、「歩道、道路、出入口に段差がある」が 28.8%でした。

「歩道、道路、出入口に段差がある」と答えた方の割合は、「知的障がい」及び「精神障がい」、「知的障がい・精神障がい」以外で最も高くなっています。

また、「知的障がい」及び「知的障がい・精神障がい」では、「周囲に自分の意思を伝えたりすることがむずかしい」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 12）

(5) 日中の過ごし方について

- 平日の日中の主な過ごし方については、「自宅で過ごしている」と答えた方の割合が 55.7%と最も高く、前回の調査と同様の結果でした。

「自宅で過ごしている」と答えた方の割合は、「身体障がい」及び「精神障がい」、「身体障がい・精神障がい」で最も高くなっています。

また、「知的障がい」及び「知的障がい・精神障がい」では、「就労支援施設に通っている」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 13）

- 施設に通いたい（通い続けたい）かについては、「通う必要がない」と答えた方の割合が 39.4%と最も高く、次いで「生活習慣の維持が中心の施設に通いたい」が 13.4%となっています。

また、「知的障がい」では、「将来の就労につながる就労訓練や作業中心の施設に通いたい」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 14）

2 就労について

- 働くために必要だと思うことについては、「特にない」と答えた方の割合が 38.5%と最も高く、次いで「障がいのあるかたにあった仕事を用意されていること」が 24.9%、「事業主や職場の人たちが、障がい者雇用について十分理解していること」が 24.4%となっています。

「障がいのあるかたにあった仕事を用意されていること」と答えた方の割合は、「知的障がい」及び「身体障がい・知的障がい」で最も高くなっています。（問 15）

3 福祉サービスについて

- 福祉サービスを利用しているかについては、「生活介護」と答えた方の割合が 8.7%と最も高く、次いで「日常生活用具給付・補装具費支給」が 7.9%となっています。

「生活介護」と答えた方の割合は、「身体障がい・知的障がい」で最も高く、「日常生活用具給付・補装具費支給」と答えた方の割合は、「身体障がい」で最も高くなっています。

また、「知的障がい」及び「精神障がい」では、「就労継続支援」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 16）

○障がい福祉施策で改善や拡充してほしいと思うことについては、「経済的負担の軽減」と答えた方の割合が 32.1%と最も高く、次いで「相談支援体制」が 20.4%、「道路・交通・建物のバリアフリー」が 20.2%となっています。

「道路・交通・建物のバリアフリー」と答えた方の割合は、「身体障がい・知的障がい」及び「身体障がい・精神障がい」で最も高くなっています。（問 17）

○地域で自立して生活を送るために重要だと思うことについては、「相談窓口や情報提供の充実」と答えた方の割合が 36.4%と最も高く、次いで「段差などがなく利用しやすい公共施設・交通機関等の整備」が 29.7%となっています。

「相談窓口や情報提供の充実」と答えた方の割合は、「身体障がい」及び「精神障がい」で最も高く、「段差などがなく利用しやすい公共施設・交通機関等の整備」と答えた方の割合は、「身体障がい・知的障がい」で最も高くなっています。

また、「知的障がい」及び「身体障がい・精神障がい」、「知的障がい・精神障がい」では、「障がいへの理解や交流の促進」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 18）

4 差別や偏見について

○差別・暮らしにくさ、いやな思いについては、「ない」と答えた方の割合が 52.1%と最も高く、次いで「わからない」が 22.0%となっています。

「ある」と答えた方の割合は、「知的障がい・精神障がい」及び「身体障がい・知的障がい・精神障がい」で最も高くなっています。（問 19）

○障がいへの理解を深めるために必要だと思うことについては、「障がいへの理解を深めるための広報・啓発を充実する」と答えた方の割合が 40.5%と最も高くなっています。（問 20）

5 防災について

○災害時に一人で避難できますかについては、「できない」と答えた方の割合が 38.2%と最も高く、次いで「できる」が 37.1%となっています。前回の調査では、「できない」と答えた方の割合が 46.4%、「できる」が 30.6%でした。

「できる」と答えた方の割合は、「身体障がい」及び「精神障がい」で最も高くなっています。（問 21）

○災害時の支援体制については、「避難所への誘導」と答えた方の割合が 55.5%と最も高く、次いで「障がい者に配慮した避難所運営」が 44.0%となっています。（問 22）

6 その他

○青森市自立支援協議会のことを「知っている」方の内、話し合う場に参加したいと思うかについて、「思う」と答えた方の割合が 39.4%、「思わない」と答えた方の割合が 54.0%となっています。（問 23,24）

障がいのあるお子さんの保護者

1 日常生活について

- 暮らしているところについては、「自宅」と答えた方の割合が 98.9%と最も高くなっています。（問 5）
- 一緒に暮らしている方については、「親と暮らしている」と答えた方の割合が 96.7%と最も高くなっています。（問 6）
- 介助や支援をしている方については、「母親」と答えた方の割合が 92.4%と最も高く、次いで「父親」が 59.8%となっています。（問 7）
- 平日の日中の過ごし方については、「特別支援学校に通っている」と答えた方の割合が 50.0%と最も高く、次いで「幼稚園・保育園や小中学校の普通学級に通っている」が 23.9%となっています。（問 8）
- 療育や支援で充実させるべき点については、「友達など人のかかわり方に対する支援」と答えた方の割合が 48.9%と最も高く、次いで「療育を行う施設の増設」が 44.6%となっています。
また、「身体障がい」では、「学習に対する支援」及び「送り迎えなど通園・通学に対するサービス」、「療育の内容や施設についての情報」と答えた方の割合が最も高く、「知的障がい」及び「精神障がい」では、「友達など人のかかわり方に対する支援」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 9）

2 就学について

- 教育や学校生活で充実させるべき点については、「友人との関係づくり」及び「就労に向けた教育」と答えた方の割合が 38.0%と最も高く、次いで「教職員の理解・支援」が 30.4%となっています。
「友人との関係づくり」及び「就労に向けた教育」と答えた方の割合は、「知的障がい」及び「精神障がい」で最も高くなっています。また、「身体障がい」では、「学習指導」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 10）
- 学校以外の時間をどのように過ごしてほしいかについては、「同世代の子どもと遊んでほしい」と答えた方の割合が 41.3%と最も高く、次いで「放課後等デイサービスで過ごしてほしい」が 34.8%となっています。（問 11）

3 外出について

- 外出時に困ったり不便に感じたりすることについては、「自分の意思を伝えたり、コミュニケーションをとるのがむずかしい」と答えた方の割合が 52.2%と最も高く、次いで「バス・電車等の中や、店、施設の中で落ち着いて過ごすことが難しい」及び「障がいがあることをわかってもらえない」が 33.7%となっています。（問 12）

4 悩みごとについて

- 悩みごとや困ったことについては、「お子さんの将来のこと」と答えた方の割合が 73.9%と最も高く、次いで「お子さんの就職のこと」が 52.2%、「お子さんの育児や教育のこと」が 45.7%となっています。（問

13)

○相談相手については、「家族・親せき」と答えた方の割合が 67.4%と最も高く、次いで「障がいのある子や同じ悩みを持つ保護者」が 43.5%となっています。（問 14）

5 福祉サービスについて

○福祉サービスを利用しているかについては、「放課後等デイサービス」と答えた方の割合が 35.9%と最も高く、次いで「児童発達支援」が 21.7%となっています。（問 15）

○福祉サービスを利用するときに困ったことについては、「どの事業所が良いのかわからない」と答えた方の割合が 16.3%と最も高く、次いで「特に困ったことはない」が 13.0%となっています。

また、「身体障がい」では、「どんな事業所があるのかわからない」と答えた方の割合が最も高くなっています。（問 16）